



白鷹町ゼロカーボンシティ宣言

白鷹町は、西に朝日連峰、東に白鷹丘陵を仰ぐ盆地を形成し、中央を最上川が流れ、その周りに水田地帯が広がる自然豊かな町です。

近年、豪雨や猛暑など地球規模での温暖化が原因と思われる災害が多発しており、町民生活に深刻な影響を及ぼしています。

これらを背景として、白鷹町は町民や事業者と一体となって、SDGsの視点を持った持続可能なまちづくりと、豊かな自然を次の世代に引き継いでいくために、脱炭素型ライフスタイルなどの普及や再生可能エネルギーの地産地消、緑の循環システムの推進など、地球温暖化防止への取組みや二酸化炭素の吸収源である森林の整備等を行い、2050年までに二酸化炭素排出量実質ゼロを目指していくことを宣言します。

令和3年11月3日

白鷹町長 佐藤 誠 七

白鷹町ゼロカーボンを達成するための取組み

白鷹町地球温暖化対策実行計画（区域施策編・事務事業編）を策定し、二酸化炭素排出量の削減目標達成に向け、町民や事業者、町が一体となって取組んでいきます。

【主な取組み】

(1) 省エネルギーの推進

ごみの減量化や分別、4R(※1)の推進を継続するとともに、ハイブリッド車等やエコドライブの導入・普及に努めます。また、クールチョイス(※2)の取組みや脱炭素型ライフスタイルなどの普及に取り組んでいきます。

(2) 再生可能エネルギーの利用推進

太陽光発電や木質バイオマスの利用促進を図るとともに、再生可能エネルギーの地産地消を目指します。

(3) 森林吸収対策の推進

県内一の人工林地帯(約5,300ha)を持つ本町の特徴を活かし、森林整備への支援や再造林整備を行い、緑の循環システムを推進します。

(4) 地球温暖化防止に関する啓発の推進

町民や事業者、町が一体となって取組んでいくため、地球温暖化対策活動の推進や環境学習等の充実を図るとともに、広く情報提供に努めます。

(※1) 4R
Refuse(リフューズ)、Reduce(リデュース)、Reuse(リユース)、Recycle(リサイクル)の頭文字の4つのRから4Rと呼んでいます。

Refuse(リフューズ) 断る	ごみになるものを家庭に持ち込まない。 不必要なものは買わない、断る。
Reduce(リデュース) 少なくする	ごみを減らす。ものを大事に使う。 できるだけごみを出さない生活をする。
Reuse(リユース) 再使用する	繰り返し使用する。修理して使う、人に譲る。 リユースできるものを使う。
Recycle(リサイクル) 再生利用する	なるべく捨てない。リサイクルできるものは分別する。 リサイクル品を買って循環の輪をつなげる。

(※2) クールチョイス
CO2などの温室効果ガスの排出量削減のために、脱炭素社会づくりに貢献する「製品への買換え」、「サービスの利用」、「ライフスタイルの選択」など地球温暖化対策に資するあらゆる「賢い選択」をしていこうという取組みです。